

(社)日本原子力学会 標準委員会 基盤・応用技術専門部会  
第21回廃止措置分科会 (R3SC) 議事録

1. 日時 2010年7月29日(木) 10:00~12:00
2. 場所 日本原子力技術協会 会議室 C, D
3. 出席者(敬称略)
  - (出席委員) 岡本主査、武部副主査、田中幹事、井口、石原、梶谷、川崎、北山、工藤、福島、森本(11名)
  - (代理出席委員) 杉山(伊藤委員代理)、小林(軍司委員代理)、福谷(小山委員代理)、高木(三本木委員代理)、蒲生(富永委員代理)、新崎(東委員代理)、松尾(村上委員代理)(7名)
  - (欠席委員) 高見、丹沢、松原、見上、山中(5名)
  - (常時参加者) 石倉、今川、北島、中村、増田、湊(5名)
  - (代理出席常時参加者) 千田(金澤常時参加者代理)(1名)
  - (欠席常時参加者) 片桐、北村、渋谷(3名)
  - (傍聴者) 堀川(常時参加者候補)、渥美、村上(3名)
4. 配付資料
  - R3SC-21-1 第21回廃止措置分科会 人事案件
  - R3SC-21-2 第20回廃止措置分科会 (R3SC) 議事録(案)
  - R3SC-21-3 第7回基盤・応用技術専門部会議事録(案)
  - R3SC-21-4 標準委員会活動状況
  - R3SC-21-5 日本原子力学会「原子力施設の廃止措置の計画:2009(AESJ-SG-A001:2009)」に関する技術評価【中間報告】
  - R3SC-21-6-1 【中間報告】「実用発電用原子炉等の廃止措置の計画:20XX」改定について(A3版)
  - R3SC-21-6-2 【中間報告】「実用発電用原子炉等の廃止措置の計画:20XX」改定について(ppt)
  - R3SC-21-6-3 「実用発電用原子炉等の廃止措置の計画:20XX」改定案
  - R3SC-21-6-4 「実用発電用原子炉等の廃止措置の計画:20XX」改定前後比較表
  - R3SC-21-7 廃止措置に係る学会標準の改定の進め方について
  - R3SC-21-8-1 【中間報告】「原子力施設の廃止措置の実施:20XX」改定の概要(A3版)
  - R3SC-21-8-2 【中間報告】「原子力施設の廃止措置の実施:20XX」改定の概要(ppt)
  - R3SC-21-8-3 「原子力施設の廃止措置の実施:20XX」の改定案と「原子力施設の廃止措置の計画と実施:2006」及びJISZ8301との関係比較

## 5. 議事

議事に先立ち、分科会開催時点で委員 23 名中代理出席を含め 18 名が出席しており、分科会成立に必要な委員数（16 名以上）を満足していることが報告された。

### （1）人事案件

事務局より R3SC-21-1 に基づいて、3 名の委員の退任が報告され、2 名の新たな委員候補が推薦され、決議の結果、選任された。また、1 名の常時参加者候補が紹介され、決議の結果、登録が承認された。

#### ① 委員の退任（敬称略）

伊藤 哲夫 委員 近畿大学

三本木 満 委員 東京電力(株)

山中 武 委員 (独)日本原子力研究開発機構

#### ② 委員の新任（敬称略）

杉山 亘 近畿大学

高木 昌和 東京電力(株)

#### ③ 常時参加者の登録（敬称略）

堀川 義彦 (株)原子力エンジニアリング

### （2）前回議事録（案）の確認

前回議事録案（R3SC-21-2）が紹介され承認された。

### （3）基盤・応用技術専門部会活動状況

基盤・応用技術専門部会活動状況（R3SC-21-3）が紹介された。

### （4）標準委員会活動状況

標準委員会活動状況（R3SC-21-4）が紹介された。

### （5）廃止措置技術評価ワーキンググループにおける学会標準の技術評価（中間報告）の状況

井口委員より R3SC-21-5 によって、廃止措置技術評価ワーキンググループの中間報告が紹介された。主な説明内容は次の通りである。

- ・ 「原子力施設の廃止措置の計画と実施：2006」（以下「2006 廃止措置標準」）から、「計画」部分が切り分けられて制定された「原子力施設の廃止措置の計画：2009」（以下「2009 計画標準」）を民間規格として活用するため、本標準が法令上の要求をみたすものであるかについて技術評価が行われた。評価の結果、廃止措置

認可申請において6項目に分けて追加すべき要件が抽出された。

- ・ 2009 計画標準において、法令上の要求に合致しないとされたものはない。
- ・ 法令上の要求に対して、本文中に記載がないが附属書（参考）に記載されているものがある。これらについては、附属書の該当部分又は全文を本文に転記するか、該当する附属書を規定化するように要求されている。
- ・ 参照される附属書について、別途専門的な評価が必要と考えられるものは評価対象外とされている。
- ・ 法令上の要求に対して、対応する事項の記載のないものについては、新規に記載することが要望されている。

(6) 廃止措置技術評価ワーキンググループ（中間報告）を受けた「実用発電用原子炉等の廃止措置の計画：2009」の改定案

田中幹事より、R3SC-21-6-1～6-4を用いて、「実用発電用原子炉等の廃止措置の計画：2009（2009計画標準）」の改定案の説明があった。主な説明事項は次の通りである。

- ・ 2009 計画標準は、本年1月に発行されたばかりであるが、技術評価WGの中間報告や新たな知見、学会標準「標準作成の手引」への準拠等の理由から、定期改定を待たずに改定を行うものである。
- ・ 規制における民間規格の活用を前提とし、適用範囲を実用発電用原子炉等に限定する。
- ・ 他の標準又は文献を直接引用しているものについては、本標準から削除し、参照先文献名を記載する。
- ・ 改定に向けたスケジュールは次の通りとする。

2010年9月 専門部会、標準委員会 中間報告

2010年11月 専門部会 本報告 書面投票

2011年1月 標準委員会 本報告 書面投票

2011年4～5月 公衆審査

2011年6月 発行

説明に対する質疑、コメント等主なものは次の通りである。

- ・ 民間規格の活用という観点では、適用範囲を限定することは適切である。
- ・ 中間報告の要求事項のうち、新規に記載することを要求されているもののうち、判断の基準を記載するものについては、より具体的な記載とすべきである。

⇒ 記載について、再検討し、中間報告までに修正する。

☆ 提示された改定案(R3SC-21-6-3～6-4)に対するコメント等は、8月20日までに、田中幹事まで送付のこと。

(7) 廃止措置に係る学会標準の改定の進め方について

田中幹事より、R3SC-21-7を用いて廃止措置の学会標準改定の今後の進め方について提案

があった。主な提案事項は次の通りである。

- ・ 計画標準については、(6)でも説明あった通り、実用発電用原子炉等と試験研究炉及び核燃料物質使用施設等を分離する。試験研究炉及び核燃料物質使用施設等については、将来必要に応じて更に施設の種類毎に分離していく。
- ・ 実施標準については、前回の分科会で説明のあった通り、構成上の改定を行ったのち、実績を反映した改定を行う。実施標準については、施設毎に分離するようなことはない。但し、技術分野毎に十分な実績のあるもの、また、ニーズの多い技術分野については、独立した標準として制定していく。「廃止措置時の耐震安全」がその最初の標準になり、今年の末頃から分科会での検討を開始する。

上記内容について、審議のうえ承認された。なお、試験研究炉及び核燃料物質取扱施設等の計画標準は、同じスケジュール若しくは3ヶ月遅れで改定する。

#### (8) 「原子力施設の廃止措置の実施：20XX」の改定案

森本委員及び石倉常時参加者から、R3SC-21-8-1～8-4を用いて、「原子力施設の廃止措置の実施：20XX」の改定案について説明があった。

- ・ 今回の改定は「構成上の改定」であり、規定内容は2006年標準の5章に準拠する。
- ・ 2009年計画標準に合わせ「汚染の除去」から「解体撤去」を独立させた章立とする。
- ・ 本体、附属書、解説などの様式は、学会標準「標準作成の手引」、JIS Z 8301」に準拠する。
- ・ 法令、規則などが改正された内容は改定する。

説明に対する主なコメント事項は、次の通りである。

- ・ 計画標準が改定になるので、「3. 廃止措置の考え方」も新しい改定に合わせる。
- ☆提示された改定案(R3SC-21-8-1～8-4)に対するコメント等は、8月20日までに、森本委員まで送付のこと。

#### (9) 今後のスケジュール

- ・ 計画標準は(6)、実施標準は(8)で示された計画に従って、改定作業を進めていく。

#### (10) その他

- ・ 次回分科会：2010年10月8日 13:30～（場所は後日連絡）

以上